

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 保育実習指導 I		授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 小林 智子・松本 貴子 鶴川 真裕美 (全員実務経験者)
授業の回数 30 回	時間数 (単位数) 60 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・通年	必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] ・ 保育所・施設などの機能や内容、保育士としての職務について理解する。				
[授業全体の内容の概要] ・ 実習に関する目的と概要・記録のとり方・実習生に臨む姿勢などについて理解する。 ・ 学外からの特別講師により実習に向けた心構えや必要な準備などを把握する。				
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ 実習指導を通して今現在の自らの課題を抽出し改善の意識を持つことができる。 ・ 実習の重要性を認識し、基礎的な保育士の役割について理解することができる。 ・ 実習生として求められている姿を明確にし、そこに向けた自己研鑽が継続できる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
コマ数				
1. 自己紹介ボードの説明、計画を立てる 2. 自己紹介ボード作成① 3. 自己紹介ボード作成② 4. 自己紹介ボード発表と提出 5. 実習エプロンの説明、計画を立てる 6. 実習エプロン制作① 7. 実習エプロン制作② 8. 実習エプロン制作③ 9. 実習エプロン制作④ 10. 実習エプロンの発表と提出 11. 日誌の書き写し 12. 施設実習とは何か (目的と意義) 13. 保育実習 I (施設) 実習の希望調査用紙配布、自主実習に向けての説明 14. 保育実習 I (保育所) の目的と意義について学ぶ 15. 自主実習事前指導、保育者のマナーとは、夏休みの課題説明 16. 夏休みの課題回収および発表、自主実習後の振り返り、自己課題の抽出 17. 実習日誌記入に向けた説明、日誌の必要性を学ぶ 18. DVD を観て日誌に書き起こす 19. 実習の手引き配布、書類作成 (誓約書・調書) 20. 実習に臨むにあたり記入 21. 特別講義 22. 指導案作成に向けた説明、保育実習 II・III の希望調査実施				

23. 指導案作成①（導入～絵本読み聞かせ）
24. 指導案作成②（導入～ゲーム運営）
25. 実習前オリエンテーションに向けた準備、予約
26. 実習の日々のねらい作成（10日分および土曜保育分）
27. 実習評価・実習のまとめ・お礼状・出勤簿についての説明、持ち物検査の実施
28. 指導案の返却、実習出発式に向けた準備・自己課題の確認、リハーサル
29. 実習日誌記入上の諸注意確認、実習日誌の実際を学ぶ
30. 実習ファイルの配布

[使用テキスト・参考文献]

- ・実習の記録と指導案（ひかりのくに）
- ・mew 保育教本（オリジナルテキスト）
- ・実習の手引き
- ・その他参考資料を適宜配布

[単位認定の方法及び基準]

- ・単位取得には8割以上の出席が必要
- ・課題の提出状況・授業態度状況、課題日誌提出状況より到達目標の6割以上修得が認められる場合

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 保育実習 I (保育所)		授業の種類 実習	授業担当者 瀧澤 延子・長谷川 智子 小林 智子・松本 貴子 (全員 実務経験者)
授業の回数	時間数 (単位数) 90 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習は学内で学習した理論を、保育士の仕事に助手的な形で携わることを通して、授業で学んだ内容と実践の統合をはかることを目的とする。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習を通して子どもの生活を理解する。 ・実習を通して子どもを取り巻く環境を理解する。 ・実習を通して保育士の役割を理解する。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部分実習を行うことで保育と子どもについて実践的に学ぶ。 ・乳幼児との関わりを通して子ども理解を確かなものにする。 ・保育士の役割や専門性を知り、必要な知識や技術を習得する。 			
<p>[実習方法]</p> <p style="padding-left: 20px;">保育所での生活に参加することにより、保育の一日の流れを全体的に理解し、乳幼児の生活や遊びの観察、保育士の保育業務の観察を通して保育所保育の在り方を学ぶ。</p> <p>[実習段階の具体的な内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 見学・観察実習 保育の実際場面の観察を行う。子どもの生活リズムを理解し、生活内容の概要、対象児のおおまかな行動と展開、それにとまなう保育士の対応を把握する。 ② 参加実習 担当保育士の指示に従いながら子どもの遊びや活動に参加する。対象児と共に遊び生活することで興味や関心・心情の動きを感じ取り、個々に応じた保育士の援助を理解する。 ③ 責任実習 (部分実習) 生活面の一部、あるいは遊びの一部など一日の流れの部分において、事前に指導案を作成し安全への配慮を行いながら主体的な保育を実践する。 <p>[実習の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳未満児と幼児の生活のそれぞれを理解する。 ・日課に沿って保育士の活動 (環境・子どもへの対応など) を多面的に理解する。 ・自ら準備した課題を保育の場で実践する。 ・保育士を志すものとしての自覚を高める。 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>Mew 教本、実習の手引きなど 本校独自のテキストを使用</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要実習時間の参加が必要 ・実習先からの評価表を参考に実習態度、保育技術等で評価し、到達目標の6割以上の修得が必要 	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) 保育の造形表現 I	授業の種類 (講義・ 演習 ・実習)	授業担当者 溝口 敏美 (実務経験者)																			
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	必修・選択 必修																		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>造形の基礎を身につけ、視覚伝達としての多様な表現力を身につけ、子ども達とのコミュニケーションを容易にする感性を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>絵画、彫塑、デザインの基礎学習と創作</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>材料、用具の特性と造形の基礎を理解し、楽しみながら意欲的に造形活動を行ったか。作品が子ども達にとって新鮮で魅力的な創意に満ちたものであるか。</p>																					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; padding: 2px;">1</td> <td style="width: 30%; padding: 2px;">「立方体」</td> <td style="padding: 2px;">透視図法、明暗、色の明度を描写で理解</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">2～ 3</td> <td style="padding: 2px;">「果物・木の葉」</td> <td style="padding: 2px;">自然物の観察を深め、形や色の特性を描写で理解し、表現の多様性を考える</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">4～ 7</td> <td style="padding: 2px;">「ステンドグラス」</td> <td style="padding: 2px;">主題の明視性を高める構成と色彩計画力を育成し、園内の行事や装飾などに応用できるようにする</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">8</td> <td style="padding: 2px;">「吊るす」</td> <td style="padding: 2px;">貼る、折ることによるデコレーション制作</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">9～12</td> <td style="padding: 2px;">「動物のお面」</td> <td style="padding: 2px;">紙板構造を活用して、シンプルで独創的なお面作成</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">13～15</td> <td style="padding: 2px;">「レタリング」</td> <td style="padding: 2px;">フリーハンドによるレタリング技術の育成</td> </tr> </table>				1	「立方体」	透視図法、明暗、色の明度を描写で理解	2～ 3	「果物・木の葉」	自然物の観察を深め、形や色の特性を描写で理解し、表現の多様性を考える	4～ 7	「ステンドグラス」	主題の明視性を高める構成と色彩計画力を育成し、園内の行事や装飾などに応用できるようにする	8	「吊るす」	貼る、折ることによるデコレーション制作	9～12	「動物のお面」	紙板構造を活用して、シンプルで独創的なお面作成	13～15	「レタリング」	フリーハンドによるレタリング技術の育成
1	「立方体」	透視図法、明暗、色の明度を描写で理解																			
2～ 3	「果物・木の葉」	自然物の観察を深め、形や色の特性を描写で理解し、表現の多様性を考える																			
4～ 7	「ステンドグラス」	主題の明視性を高める構成と色彩計画力を育成し、園内の行事や装飾などに応用できるようにする																			
8	「吊るす」	貼る、折ることによるデコレーション制作																			
9～12	「動物のお面」	紙板構造を活用して、シンプルで独創的なお面作成																			
13～15	「レタリング」	フリーハンドによるレタリング技術の育成																			
[使用テキスト・参考文献] 無し	[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・授業態度と、各課題の提出物で評価し、到達目標の6割以上の修得が必要																				

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業タイトル (科目名) 保育の身体表現 I		授業の種類 (講義・ 演習 ・実習)		授業担当者 平沢 康子 (他 1 名) (実務経験者)			
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年・後期		必修・選択 必修			
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>現代の子どもを取り巻く環境から必要な運動ならびに遊びを展開できるようになる。実際に、運動遊びを体験していくなかで、多くの動作の組み合わせ方、様々な遊具の使い方、遊具やその場の意味づけ、その場の雰囲気やルールづくりを具体的な展開ができるようになる。</p> <p>[授業の全体の概要]</p> <p>各種の身体表現 (運動遊び、リトミック、ダンス等) を通して、子どもの生きる力を育てるための知識や技能を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到着目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを取り巻く環境等をふまえ、身体表現の重要性を理解する。 2. 乳幼児期の心身の発達に適した指導法を理解する。 3. 運動遊びの具体的な内容と効果的な手法を理解する。 <p><実技></p> <ol style="list-style-type: none"> 4. リトミックの基礎理論と基本の動きを習得する。 5. リズム表現に必要な動きのバリエーションや歌・手遊びなどを習得する。 6. 多様な動きづくりのための運動遊びを習得する。 							
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 40%; vertical-align: top; padding: 5px;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要説明 2. 子どもを取り巻く諸問題 3. 乳幼児期の身体の特徴(1) 4. " (2) 5. 運動発達段階と運動技能 6. 体力の定義と運動能力 7. 運動遊びの重要性(1) 8. " (2) 9. 運動指導の基本的な考え方(1) 10. " (2) 11. 運動遊びの内容 12. 指導上の留意点 13. 運動遊びの計画例 14. 実技テスト (リズム体操) 15. 筆記テスト </td> <td style="width: 60%; vertical-align: top; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><実技></p> <p>リトミックの基礎理論 リトミックの基本の動き 神経と筋協応の運動遊び 多様な動きづくり(1) 支持力 多様な動きづくり(2) バランス、柔軟性 多様な動きづくり(3) 移動系 多様な動きづくり(4) 操作系 1 多様な動きづくり(5) 操作系 2 手作り用具による運動遊び ふれあい、じゃれつき遊びのすすめ マット、鉄棒等の種目の指導方法 遊具等を利用した運動遊びの展開方法 リズム体操の展開の仕方</p> </td> </tr> </table>						<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要説明 2. 子どもを取り巻く諸問題 3. 乳幼児期の身体の特徴(1) 4. " (2) 5. 運動発達段階と運動技能 6. 体力の定義と運動能力 7. 運動遊びの重要性(1) 8. " (2) 9. 運動指導の基本的な考え方(1) 10. " (2) 11. 運動遊びの内容 12. 指導上の留意点 13. 運動遊びの計画例 14. 実技テスト (リズム体操) 15. 筆記テスト 	<p style="text-align: center;"><実技></p> <p>リトミックの基礎理論 リトミックの基本の動き 神経と筋協応の運動遊び 多様な動きづくり(1) 支持力 多様な動きづくり(2) バランス、柔軟性 多様な動きづくり(3) 移動系 多様な動きづくり(4) 操作系 1 多様な動きづくり(5) 操作系 2 手作り用具による運動遊び ふれあい、じゃれつき遊びのすすめ マット、鉄棒等の種目の指導方法 遊具等を利用した運動遊びの展開方法 リズム体操の展開の仕方</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要説明 2. 子どもを取り巻く諸問題 3. 乳幼児期の身体の特徴(1) 4. " (2) 5. 運動発達段階と運動技能 6. 体力の定義と運動能力 7. 運動遊びの重要性(1) 8. " (2) 9. 運動指導の基本的な考え方(1) 10. " (2) 11. 運動遊びの内容 12. 指導上の留意点 13. 運動遊びの計画例 14. 実技テスト (リズム体操) 15. 筆記テスト 	<p style="text-align: center;"><実技></p> <p>リトミックの基礎理論 リトミックの基本の動き 神経と筋協応の運動遊び 多様な動きづくり(1) 支持力 多様な動きづくり(2) バランス、柔軟性 多様な動きづくり(3) 移動系 多様な動きづくり(4) 操作系 1 多様な動きづくり(5) 操作系 2 手作り用具による運動遊び ふれあい、じゃれつき遊びのすすめ マット、鉄棒等の種目の指導方法 遊具等を利用した運動遊びの展開方法 リズム体操の展開の仕方</p>						
使用テキスト・参考文献 ・プリント配布			[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には 8 割以上の出席が必要 ・筆記試験と実技試験を課し、到達目標の 6 割以上の修得が必要				

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) 保育の心理学	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 田村 人志	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間における生涯発達について基本的な知識を習得する。 ・子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の認知や言語などの発達、さらに発達観や生涯発達の視点について学ぶ。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達プロセスを理解し、保育における子どもへの関わり方を理解することができる。 ・子どもの行動から子どもの心理を考察することができる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践と心理学 2. 子どもの発達① 3. 子どもの発達② 4. 子どもの発達と環境 5. 情緒の発達と自我 6. 身体的機能と運動機能の発達 7. 知覚と認知の発達 8. ことばの発達と社会性 9. 個性を理解する方法 10. 基本的信頼感の獲得 11. 他者との関わり 12. 胎児期～老年期の発達 13. 子どものアセスメント 14. まとめ 15. 期末試験 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>『保育の心理学 I 実践につなげる、子どもの発達理解』 (萌文書林)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要 	

授業概要

(こども保育科)

授業のタイトル(科目名) 保育の音楽表現Ⅱ	授業の種類 (演習)	授業担当者 竹内公一・佐々木陽子・中澤美江口裕子・渡邊若菜・坂井恵美子・玉橋寿子 (全員 実務経験者)
--------------------------	---------------	---

授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
--------------	-------------------------	------------------	-------------

保育現場で必要とされるピアノ演奏、童謡の弾き歌いを基礎から習得する。

[授業全体の内容と概要]

各クラスを2グループに分け、全体レッスン受講以外の学生はピアノの個人レッスンを受ける。全体レッスンでは声楽レッスンを取り入れ、コード伴奏による童謡の弾き歌いをできるようにする。個人レッスンではグレード制(歌唱教材伴奏法による)を取り入れ、個人の進捗状況に合わせて担当教官の指導を受ける。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

- ・ハ、ヘ、ト長調のスケール・4種のコードによるカデンツの習得。 ・ハ、ヘ、ト長調の簡単な童謡をコード伴奏で弾けるようにする。
- ・グレード6級(歌唱教材伴奏法 no.50 と no.51)の取得。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

1年後期	理論	スケール	コード	実践	個人レッスン
①		Cdur,Gdur Fdur	Cdur,Gdur全て Fdur F・C	夏休み課題 とんぼのめがね 片手 めだかのがっこう 片手	
②			Fdur F・C・C7	両手 Fdur チューリップ 歌・右手	グレード試験
③			Fdur F・B♭・C・C7	弾き歌い 両手	
④	調号			きらきら星 歌・右手 弾き歌い	
⑤				両手 Fdur おかたづけ 歌・右手	グレード試験
⑥		Fdur スケールカデンツ小テスト		弾き歌い 両手	
⑦	声楽レッスン				
⑧				Fdur おしょうがつ 歌・右手 弾き歌い	グレード試験
⑨	調号小テスト			両手 Cdur まめまき 歌・右手	
⑩	アーティキュレーション			弾き歌い 両手	
⑪	おじぎ奏(礼奏)			Cdur おべんとう 歌・右手 弾き歌い	グレード試験
⑫				Gdur 幸せなら手をたたこう 歌・片手	
⑬				両手 弾き歌い	
⑭	復習				グレード試験
⑮	実技試験				

[使用テキスト・参考文献]

- ・ こどもの歌ベストテン ドレミ出版
- ・ 歌唱教材伴奏法 バイエルとツェルニーによる 教育芸術社

[単位認定の方法及び基準]

- ・ 単位取得には8割以上の出席が必要
- ・ 実技試験と筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要

授 業 概 要

科目名 文章の理解と表現		授業の種類 講義		授業担当者 佐藤 彰 (実務経験者)	
授業回数 15コマ	時間数 (単位数) 15コマ	配当学年・時期 1 学年・後期	必修・選択 必修科目		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文章作成に関する表記、用字上の基礎的な知識の習得 2 仕事上必要な報告書・社外文書等、各種文書作成のための基礎的な知識の習得 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>社会人(保育者)が職務上必要とされる文書作成について、主に敬語の表現手紙・社外のビジネス文書作成(Eメールを含む)、作文・小論文・レポート・報告書の作成を中心に、書き方のルールを理解し、「何を」、「どのように」書いていくかの技術を身につけ、主体的に作成することができる。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 敬語が適切に使える。 2 手紙と文書(メール)の違いがわかり、作成できる。 3 作文・小論文・レポートの違いがわかり、作成できる。 4 計画書・報告書を作成できる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 伝聞 3 敬称と差別・不快用語 4 敬称と差別・不快用語② 5 案内文の作成 6 作文と小論文の違い 7 限定列举と非限定列举 8 確認テスト 9 TP0 に合わせて表現・行動 10 公用文の書き方 11 作文作成 12 小論文作成の手順 13 小論文作成 14 確認試験 15 期末試験 					
[使用テキスト・参考文献] 分かりやすい公用文の書き方			[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要		

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 創作活動	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 小林 智子・佐藤 恵美子 (全員 実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者として様々な保育教材を用いて、こどもの遊びをサポートする技能を習得する。 ・保育教材を自ら手作りすることによって、教材への愛着を持つと共に、教材に仕掛けや工夫を凝らし創造力をよりふくらませる課程を体験する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で実際に即使用できる保育の小道具づくりを行う。 ・エプロンシアター、手袋シアター、ペープサート等の製作を行い、保育の幅を広げる糧とする。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習や保育の現場で使用するオリジナルの保育グッズの完成を目指す。 ・作ったものを活用できる実践力も共に身に付けられるようにする。 			
<p>[授業の計画・内容・方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、製作するための準備物の確認等、ペープサート製作の導入 2. ペープサートの作成 3. ペープサートの作成 4. ペープサートの作成 5. ペープサートの発表・提出 6. エプロンシアターへの導入、テーマ決め 7. エプロンシアターの作成 8. エプロンシアターの作成 9. エプロンシアターの作成 10. エプロンシアターの作成 11. エプロンシアターの作成 12. エプロンシアターの発表・提出 13. 手袋シアター製作の導入、テーマ決め 14. 手袋シアターの作成 15. 手袋シアターの作成・遊びの実践・提出 			
[使用テキスト・参考資料等] 適宜プリント配布		[単位認定の方法及び基準] <ul style="list-style-type: none"> ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・授業態度と、各課題の提出物で評価し、到達目標の6割以上の修得が必要 	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 情報Ⅱ	授業の種類 (講義・ 演習 ・実習)	授業担当者 田村 人志	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 15時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 1 入力操作に慣れる 2 表計算ソフト「Excel」、プレゼンテーションソフト「PowerPoint」の機能を理解する 3 「Excel」や「PowerPoint」が扱える。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ Excel での作表をすることができ、基本的な関数を利用することができる。 ・ PowerPoint のシートの作成ができ、表示機能を利用することができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 前期の復習 複雑な案内文の作成 2. エクセルの基本操作の確認 3. エクセルの基本操作と関数の利用の確認 4. クラス表の作成 5. カレンダーの雛形の作成 6. 年間カレンダーの作成 7. 児童台帳の作成 8. 児童台帳の完成と年度更新 9. 身体計測記録表の作成 10. 身体計測記録表のグラフを作成 11. PowerPoint で保育園案内を作成 12. PowerPoint で保育園案内の完成 13. PowerPoint で自己紹介シートの作成 14. 総合演習 15. 期末考査			
[使用テキスト・参考文献] 保育者のためのパソコン講座 朋文書林 その他適宜プリントを配布		[単位認定の方法及び基準] ・ 単位取得には8割以上の出席が必要 ・ 実技試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 社会的養護	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 大矢 アキ子	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>社会的養護の意義・役割を踏まえ、その専門職者としての資質・能力を涵養する意欲を高めるとともに、自己の児童観・施設養護観を再考する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>時代の変遷による社会福祉のニーズの変化は、養護の在り方にも大きな影響を与えている。本授業は、養護の歴史・体系・制度・政策原理等の基本事項を概観しながら、現代社会における家庭や子育てを巡る現状と課題から、時代に則した養護とそれを担う専門職者の在り方を考察するものである。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 養護問題の現状や背景が説明できる。 2. 社会的養護の体系や児童福祉施設等の役割を説明できる。 3. 児童福祉施設等における養護の実際を理解し、専門職者の役割と援助のあり方を説明できる。 4. 里親制度について理解し、説明できる。 5. 社会的養護における保育士としての児童への思いや役割、援助のあり方を深めることができる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス「この授業で学ぶもの」児童養護と保育士 2 児童養護がめざすもの 3 社会的養護の成り立ち ビデオ 4 社会的養護の成り立ち 5 児童養護の基本的な考え方 6 児童養護の体系 7 児童養護の体系 8 施設と関係機関 9 社会的養護に関する法律 10 施設職員 (保育士) の仕事理解 ビデオ 11 家庭への支援 虐待の実態 ビデオ 12 里親の現状と活用 13 里親の現状と活用 14 施設運営 児童福祉施設の援助者としての保育士 15 定期試験 			
<p>[使用テキスト]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保育士をめざす人の養護原理」 辰己隆・波田埜英治・編集 (株) みらい <p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「図解で学ぶ保育・社会的養護 I」 原田旬哉・杉山宗尚 (株) 萌文書林 		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要 	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 子どもの保健	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 大塚 三聖 (実務経験者)	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保健における意義や子どもの発育や発達について学び、子どもの健康を保持・増進するために必要な方策と、現代社会における子どもの健康に関する現状及び課題を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもの心身の健康及び保健についての意義や身体発育、運動機能及び生理機能の発達を学び、現代社会における子どもの健康に関する現状及び課題を踏まえた支援が行えるよう知識を習得する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの健康と子どもを取り巻く環境を理解できる。 ・ 子どもの発育と発達がわかる。 ・ 子どもの健康状態の把握ができる。 ・ 子どもの病気の予防と適切な対応ができる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの健康とは 2. 健康と健康指標 3. 子どもを取り巻く環境 4. 地域社会と保育所 5. 身体の発育 6. 子どもの発達 7. 生理機能の特徴 8. 子どもの健康状態のみかた 9. 体調の良くない子どもへの対応 10. 発育と発達の評価とその診断基準 11. 保護者との情報共有とその方法 12. 主な病気の特徴と対応、予防について 13. 保育所でよく見かける病気 14. 予防できる疾患に対する対策 15. 定期試験 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> 保育者のためのわかりやすい子どもの保健 日本小児医事出版		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単位取得には8割以上の出席が必要 ・ 筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要 	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 子どもの健康と安全	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 長谷川 智子 (実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>望ましい保育環境とは何か、子どもの健康と安全管理のために保育者にできることは何かについて学び、保育における保健的観点を踏まえた環境や援助について理解する。更に子どもの健康及び、安全の管理に関わる具体的な実践力を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について、関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。子どもの体調不良等に対する適切な対応など具体的援助技術を演習で取得する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 望ましい保育環境とは何か理解できる。 ・ 保育における健康安全管理の実際がわかる。 ・ 体調不良の子どもへの対応がわかる。 ・ 感染症の予防と対策がわかる。 ・ 保育所における保健的対応がわかる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 望ましい保育環境とは 2. 子どもの健康と安全管理 3. 保育現場での衛生管理 4. 事故防止と安全管理 5. 災害への備えと危機管理 6. 子どもの主な症状への対応 7. 応急処置と緊急処置 8. 感染症集団発生の予防 9. 感染症対策 10. 保育所における保健的対応 11. 保育所における保健的対応 (実践) 12. 健康・安全に対する職員の連携と組織的取り組み 13. 子どもの健康づくりへの取り組み 14. 母子に関する法律 15. 期末試験 			
[使用テキスト・参考文献] ・ 保育者のためのわかりやすい子どもの保健 日本小児医事出版 ・ 必要に応じて資料プリント配布		[単位認定の方法及び基準] ・ 単位取得には8割以上の出席が必要 ・ 筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要	

授 業 概 要

科目名 英語Ⅱ		授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 前原 良彦	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 15時間 (1単位)	配当学年・時期 1学年・後期		必修・選択 必修 ・選択	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>英語Ⅰの学習の上に、彼らの最終ゴールである保育所や幼稚園に関する英語表現を学び、自分自身の基礎英語の運用能力を高め、簡単な英語を使い、自分の考えや意見を述べる能力を伸ばす。そのため身近なポピュラーソングを覚える。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>学生の最も関心のある保育所や幼稚園に関する英語表現を学ぶことで、保育士・幼稚園教諭としての自信を持てるようにする。基本的英語のセンテンスパターンを駆使しコミュニケーション能力を高める。そのため身近なポピュラーソングを覚え、歌えるぐらいに練習する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>①彼らの最終ゴールである保育所や幼稚園に関する基本的英単語の意味が解る。②保育所や幼稚園に関する英語表現を覚え、理解し、使えるようにする。③一定レベルの英語を理解し、英語で自分の意見を述べられるようにしたい。そのため身近なポピュラーソングを覚え、1～2曲歌えるようにしたい。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>1 授業の進め方 ABBA Dancing Queen / School staff</p> <p>2 ABBA Dancing Queen / Nursery school</p> <p>3 Whitney Houston / Greeting</p> <p>4 Whitney Houston / Classroom</p> <p>5 Billy Joel / Things Children need</p> <p>6 Billy Joel / Things Children need</p> <p>7 Dionne Warwick /</p> <p>8 Dionne Warwick /</p> <p>9 Frozen /</p> <p>10 Frozen Ben E king /</p> <p>11 Ben E king / Lunchtime</p> <p>12 Monkeys Daydream believer / Lunch menu</p> <p>13 Modern times / Toilet Training</p> <p>14 Modern times / 復習</p> <p>15 Songs 期末試験 /</p>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書“保育英語の練習帳” 発行所 萌文書林 著者 宮田学(編) 高橋妙子(著) ・Enjoy Pop Songs <p>その他、必要と思われる資料をその都度配布する予定。</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要 		

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) スポーツ実技	授業の種類 (講義・演習・ 実技)	授業担当者 大塚 三聖 (実務経験者)	
授業の回数 23 回	時間数 (単位数) 45 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年 後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 運動の必要性を理解させ、生涯体育 (身につけた運動) として、定着させる。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] 生涯体育として、日々の生活の中で実践できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 体操 集団行動 ウォーキング ランニング 軽スポーツ 以上のもの天候等により配慮しながら行う			
[使用テキスト・参考文献] ・プリント配布 (分速毎の 1 周タイム、2 周タイム、3 周タイム表)		[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には 8 割以上の出席が必要 ・課題への取組状況および修得状況が到達目標の 6 割以上と認められる場合	

授 業 概 要

(こども保育学科)

授業のタイトル (科目名) こどもの生活と環境 I	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 瀧澤 延子 (実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育所保育指針の領域「環境」が意図しているねらいや内容をふまえ、実践や事例をとおして幼児の発達を身近なものに関わりを持ち感性を育てる。という環境の特性を明らかにする。</p> <p>学生自身が身近な環境に好奇心や探究心をもち、幼児の生活と結びついた保育の展開を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>日常生活のさまざまな場面で、幼児がかかわる人的環境、物的環境、自然環境について演習を交えながら学習する。そこから幼児が身近な環境に興味や好奇心を持ってかかわる力を育てるために、保育現場を想定しながら「お店屋さんごっこ」等実践に結び付け各自で解答を導き出す。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>学生自身が「環境とかかわる力」「豊かな感性」を養い、保育者に必要なしなやかな心を育てる。</p> <p>環境とのかかわりをとおして、幼児の内面に何が育つのか、また育つことが期待されるのか、検討できる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1～4 保育所保育指針の領域「環境」のねらいと内容の分析と考察 ※自然環境、物的環境、保育環境、行事等、保育所保育指針「環境」のねらい内容を通して、保育者の環境設定や指導法、活動のあり方を理解する。</p> <p>5～7 粘土遊びをする・ごっこ遊びをする</p> <p>8～9 おもちゃを作る (作ったものを遊びに使う)</p> <p>10～12 行事で遊ぶ (サンタクロースごっこをする)</p> <p>13～14 かるたで遊ぶ (グループで作りみんな遊ぶ)</p> <p>15 まとめと考察</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜プリントを配布する ・保育所保育指針 <p>事例で学ぶ保育内容 環境</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・課題の提出状況および修得状況と模擬保育への取り組みが到達目標の6割以上と認められる場合 	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) 子どもと自然	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 瀧澤延子 大塚三聖 鶴川真裕美 (全員実務経験者)	
授業の回数 30回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 子ども達と一緒に自然の中に出掛け自然を実感させるような指導ができるようになる。</p> <p>[授業終了時の達成課題] 乳幼児期には日常的に、自然に触れ合う事が豊かな人間形成の為に大切であることを踏まえ、保育士として自然への理解を深め感性を育てる。また、野外活動で実践力をつけ自然への磨かれた感性と柔軟な対応が身につけられるよう指導をしている。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <p>4月 年間計画について・目的について・内容について<春探し> 探した春を観察画にして画用紙にて提出</p> <p>5月 <春探し><苗植え><砂遊び> ・農の駅「あぐらって」に於いて、さつま芋の苗植え。 ・散歩時の保育士の配慮について ・西裏公園にて手足を汚して砂遊びを体験。</p> <p>6月 <シャボン玉遊び><水遊び> ・しゃぼん玉の作り方について調べ、それを基に実際に液や道具を作り遊びを体験する。 ・水遊びに適した道具を考案。またそれを実際に用いて水遊びの楽しみ方を体験する。</p> <p>7月 <キャンプ準備> キャンプについて (活動班・宿泊班づくり、しおり作り、キャンプファイヤーのリハーサル等)</p> <p>8月 <キャンプ>野外炊事・シャワーウォーク・キャンプファイヤー・アドベンチャープログラム等 国立磐梯青少年交流の家 (福島県) に於いて2泊3日で実施。</p> <p>10月 <さつま芋掘り>について考察・観察画 <秋の散歩>落ち葉拾い・木の実拾い <悠久山で焼き芋>芋煮汁、カートンドック</p> <p>11月 <水栽培> ヒヤシンス (変化に応じて開花するまで8枚の観察画を描く)</p> <p>12月 <野菜新聞作り><木のツルを使ったクリスマスリース作り> 保存方法 及び 調理方法など ※雪下野菜について学ぶ。</p> <p>1月 <雪遊び> 丘陵公園 (または防災公園) に於いて 積雪に関係なく第1週目に実施する (渦巻き陣取り・雪だるま作り・そりあそび等の体験)</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所保育指針解説書 (フレーベル館) ・ 幼稚園教育要領解説 (フレーベル館) 		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単位取得には8割以上の出席が必要 ・ 授業態度と、各課題の提出物で評価し、到達目標の6割以上の修得が必要 	

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名) こどもとあそび		授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 瀧澤 延子 (実務経験者)	
授業の回数 30回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 通年		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝承遊び、わらべ歌等伝統的な遊びから手遊び、歌遊び、ゲーム等現場で活かせるように実践力を身に付ける。 ・ レクリエーション援助技術を実践できる。 ・ 指導技能を身につける。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お手玉、あやとり、コマ、「あぶくたった」「しっぽとり」など保育園で役立つ演習を行う。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションワークとしてのホスピタリティ、アイスブレイキングの技法が活動の中で実践できるようになる ・ 現場で役立つ技能を身につける ・ 行事等の企画・運営・評価ができる 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>4月 ・初めましてのレクリエーション《お手玉、コマ (必修課題) 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「おはようのうた」に子どもの身支度の様子と擬音を入れ歌う ・ 手遊びをする 「グー・チョキ・パー」「ずっとあいこ」「青虫出たよ」「お弁当バス」 ・ 季節の歌に合わせて振付をする ・ いろいろなゲームをする ・ ジャンケンを使った遊びをする <p>7月 必修課題及び手遊びの試験<前半></p> <p>10月・あやとりをする (必修課題 一人あやとりと展開あやとり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 折り紙の指導法について (試験) ・ 遊びの企画をする (試験) ・ 体育的な遊びをする ・ グループで楽しむ遊びをする ・ 道具を使った遊びをする ・ 競争意識を取り入れた遊びをする ・ ことば遊びを取り入れた遊びをする ・ うたに合わせた振付遊びをする <p>1月 必修課題の試験<後半></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カルタを作って遊ぶ 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「手あそび百科」(ひかりのくに出版) ・ 「あそびうた大全集」(株)永岡出版 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 単位取得には8割以上の出席が必要 ・ 授業参加態度を加味し、演習課題の試験で、到達目標の6割以上の修得が必要 		